

新得町の現在地と未来図

令和6年第4回定例会 一般質問ハイライト



町長5期・19年の総括

• 令和7年度予算の壁

• DXと「対話」のジレンマ

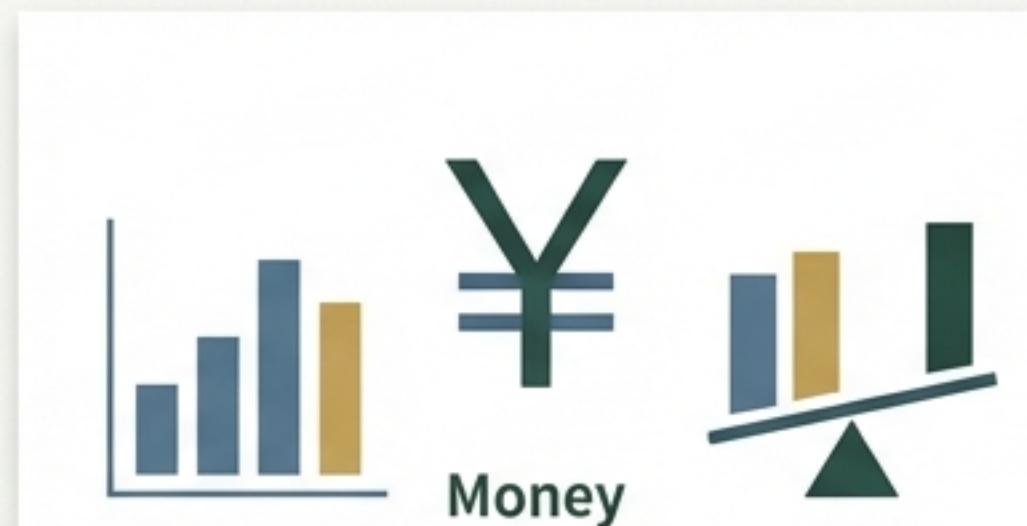
• 人手不足への具体的解

本定例会の3つの重要なポイント



5期目の完遂と評価

公約（5つの柱・15の重点政策）はすべて着手・実現済み。一方で、「19年かけても解決しない課題」への厳しい指摘も。



9,500万円の
減収リスク

「年収103万円の壁」見直しが実現した場合のインパクト。自由財源（約9億円）を「未来投資」と「生活支援」どう配分するかが争点。



Culture

アナログの哲学 vs
デジタルの要請

「膝を突き合わせる対話」を信条とする町長と、効率化・DXを求める時代の波。世代間の価値観の融合が課題。



19年間の軌跡：実績と残された課題



【町長の哲学】

「3世代が集う町」

「現場に足を運び、一緒に汗を流したい」

自己評価：5つの柱・15の重点政策はすべて実現・着手済み。



【議会の指摘】

現実：若者の離職、人手不足。

「19年でできないものは、もうできないのではないか？」

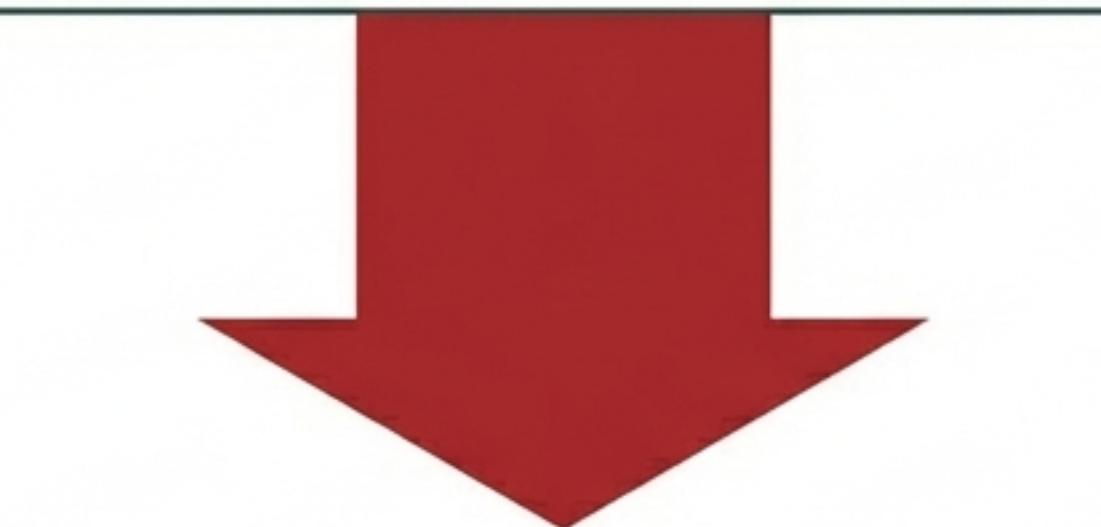
問い合わせ：その公約と成果は、本当に住民に浸透しているのか？



令和7年度予算：9,500万円の衝撃と9億円の選択



「103万円の壁」撤廃による影響試算



▲約9,500万円

(マスコミ報道ベースの試算)



自由になるお金は限られている。「何かを選べば、何かが削られる」構造的現実。



天秤にかかる「未来への投資」と「今の暮らし」

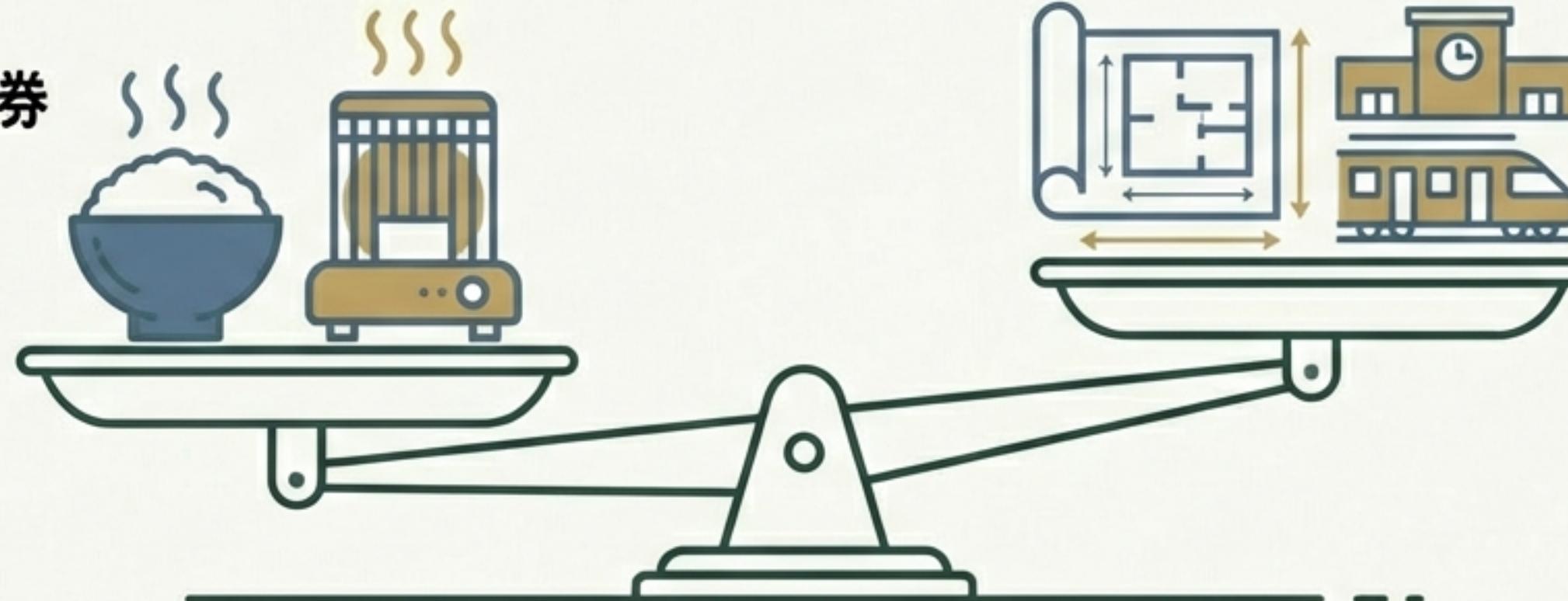


【今の暮らし】

「給食の唐揚げが2個じゃ足りない」（中学生の声）

「寒くても布団を被って耐えている」（高齢者の声）

- ・給食費補助
- ・プレミアム商品券
- ・光熱費支援



【未来への投資】

- ・庁舎建設
- ・駅前整備
- ・インフラ維持

（資材高騰によるコスト増）



町長の回答：「バランス」

将来世代への借金（負担）を抑制しつつ、国の経済対策を見極めて判断する慎重姿勢。



DX推進と「対話主義」のジレンマ



町長の哲学（アナログ）

「メールより対話」

「目と目を見て話すのが仕事」

「同じ部屋にいてメールで会話
するのは納得できない」



議会・時代の要請（デジタル）

- ・コンビニ収納の導入
- ・AI時代の働き方改革
- ・専門職（学芸員・助産師）
の採用



DXは否定しないが、あくまでツール。新得町の強みである
「人間関係」とどう融合させるかが、次世代人材確保のカギ。



人手不足への解：特定地域づくり事業協同組合

課題：最低賃金引上げ（1,010円）による扶養内労働時間の減少と、季節労働の不安定さ。

1. 組合を設立



2. 職員を通年雇用

安定した給与と身分を保障



3. 繁忙期に派遣



農家



観光業



除雪

メリット：事業者は必要な時に人を確保でき、働く人は年間通して給与が得られる仕組み。

状況：先進事例を参考に検討中



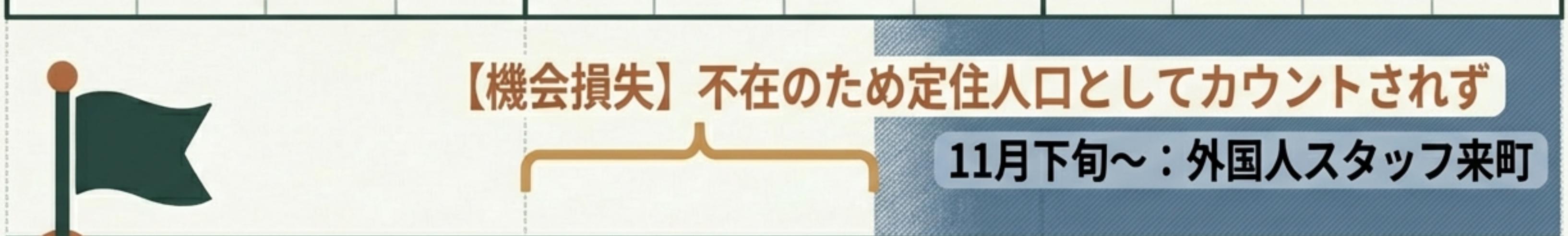
国勢調査とグローバル化の「1ヶ月のズレ」



10月

11月

12月



10月1日：国勢調査 基準日
ここでカウントされた人口が
交付税算定の基礎となる

Club Med等 (約60～100名超)

課題：夏の集客（サマーシーズン営業）への働きかけや、
早期来町に向けた施策が必要。



結論：次のフェーズへ進むために



物価対策：国の補正予算・経済対策の決定待ち（即応体制の準備）



予算配分：「9億円」の自由財源の使い道について、住民も優先順位の選択が必要



人材・DX：専門職の採用と、アナログな「熱意」のハイブリッド化



町長の5期目は集大成を迎えるが、新しい課題（人口減・DX・インフレ）は待ってくれない。

「誰かがやってくれる」ではなく、限られた財源をどう使うか、共に考える時が来ている。

